

今日は「晴れの日・晴れ舞台」卒業式です。田四十八回田の卒業式。一万九千四百四十一人の卒業生。歴史と伝統を感じます。

卒業生のみなさん一人一人の顔をみて卒業証書を手渡していくと、そもそも思いがこみあげてあし田頭と胸が熱くなりました。口口ナ禍はあはず、今年もそもそもじに禮々忍び「タマ」の期間が長かったので、いつか「懇」の訪ねどりやし、卒業生のみなさんの花開くこれからを楽しみにでやるいと、校長として幸せな思いでいっぱいです。

今年もまた、地域や来賓の方々あることはたくさんの在校生に見送られることがかなわない卒業式のかたちとなりましたが、卒業式にこじめられるたゞさんの気持ち、感動は、少しも薄づぐものではありません。卒業生のみなさんには、まず、そのことを見つからうと伝えたうと思ふます。

みなさんの小学校生活は入学式から始まりました。小さくて可愛らしく、頼りなげで立ってあげたい子どもたち。やつともれがみなさんの幼時の大姿であったことと思えます。ここから六年後の今日のみなさんの姿。この間にはこんなに大きくなつたのでしょうか。背丈は伸び、表情は少し大人びて、たくさんのでわなかつたことができるようになり、たくさんのわからなかつたことがわかるようになつました。支えられたばかりだ

つたのに、いつの間にか人を支えなければ生きていけなくなってしまう。成長するところは、とても素敵なことだと思います。

その六年間の大きな成長に思いをはせ、あらためて心から卒業生のみなさんに伝えたいと感じます。卒業おめでとう。みんなのいたからが誇しきれども、前途溝々であつまつめいじ。そして、卒業にあたりみなさんに、中学校生活であるこぼれから的人生で、忘れないことをし、意識して育ててほしい。「一つの『気持ち』について語をしたい」と思いました。

式辞では、格言つまり昔からいって伝わる人の生き方を示す言葉を紹介して卒業生への贈る言葉とすることが多いのですが、今年はそのような格言ではなく、誰もがよく知っている言葉だけれど奥深い「一つの『気持ち』について語をあげたい」としました。

忘れずにしてほしい、意識して育ててほしい一つの『気持ち』。それは「愛」です。

「愛」つい、じつこの『気持ち』だと感じますか。例えば、身近なところでは友愛・恋愛・愛犬・家族愛など。大きないとひでむ愛国心など。身近なところから大きくなるまでやがれがな言葉に使われています。

「愛」というのは、簡単にいって「大切に思つ気持ち」です。

自分に觸れるやがてまな人やもの「」とを大切に思い大事にする。それが「愛」です。卒業生のみなさんには、「愛」があふれる人、つまり、たくさんの人やもの「」とを大切に思い大事にできる人になつてほしいと思います。そういう人は、きっと、大切に思われ大事にされます。身のまわりに優しさと温かさがあふれて幸せになると思います。

忘れずにいてほしい、意識して置いてほしに一つの気持ち。それは「感謝」です。

「感謝」について、どうこの気持ちだと思いますか。はじめにいたという人はいないはずですが説明しようとすると難しいです。「感謝」というのは、「自分一人で生きているわけではないと知ること」だと解ります。たくさんの人やもの「」とに支えられ、人は生きていいくことができる。たくさんの人やもの「」に支えられ、人は成長することができるともできる。どのように知ることだと考えます。そして、自分を支えてくれる人やもの「」に、心から「ありがとうございます」と思える。そんな気持ちが「感謝」です。卒業生のみなさんには、いつも「感謝」を忘れない人になつてほしいです。そういう人は、きっと、誰かをしっかりと支える存在でもあるはずです。

「愛」と「感謝」を忘れないでいたい人。とても素敵な人だと思います。中学生になつても、将来、大人になつても、ぜひ、みなさんに会う人があつてほしいです。

日本でも世界でも、暗い気持ちになるたいへんなでやうじが毎日のようにおきる世の中です。「愛」と「感謝」を忘れずにしていく人。そんな人が日本でも世界でもあらわれるようになれば、きっと、明るい気持ちになれるでやうじもあらわれてい／はすです。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様の「卒業おぬで」と「おこま」。お子様の大やく成長された姿をじっくり見に来、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これまで六年間の学校に対する温かい理解と協力に、厚くお礼を申しあげます。中学生となるお子様に何を感じる時もあるかもしれませんが、ぜひ、変わらぬ愛情とつかず離れずほどの距離感で、やうなるお子様の成長を見守つてください。

それでは、みなさまの幸福を祈念いたしまして、お辞じをさせていただきます。

令和四年三月十八日